

1. 池袋駅周辺地域における都市再生の意義・位置づけ

■ 日本における都市再生の意義

- ▼ 人口減少を迎えた日本として、海外、とりわけアジアの成長と活力を取り込み、新たな「創造と成長」を実現することが必要。
- ▼ 新興国マーケットを中心に、日本の強みであった製造業のみならず、文化資源大国である日本の文化を体現した産業群が、これからの経済・産業の発展や雇用創出の推進力になる。

(「アジア・ゲートウェイ構想」、「文化産業立国」より)

特定都市再生緊急整備地域の指定

- 都市再生の拠点として、都市開発事業等を通じて緊急かつ重点的に市街地の整備を推進する。
- 都市の国際競争力の強化を図る(特定都市再生緊急整備地域)。

▼ 「世界一の都市・東京の実現」のための都市再生

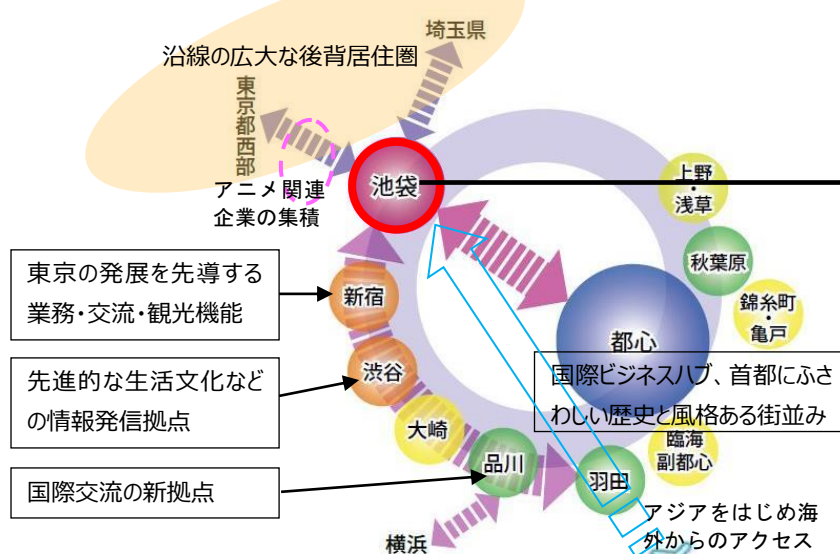
- ・日本の成長を支える国際経済都市の創造
- ・都心等の機能強化による東京の都市力の更なる向上
- ・東京、そして日本を支える人材の育成
- ・芸術文化都市を創造し、日本文化の魅力を世界に発信

(「東京都長期ビジョン」の都市戦略の一部抜粋)

■ 東京のなかの池袋

● 東京の都市構造のなかでの池袋

- ・東京都西部・埼玉方面の大きな後背圏人口をもつターミナル
- ・羽田との接続性向上による世界からのアクセスも容易
- ・新たな文化を生み出してきた歴史と沿線のアニメ産業集積
- ・「都心」と「住宅地」のエッジとして都市が形成



国際競争力を強化し、池袋が日本、東京のなかで果たす役割、池袋での都市再生の意義とは？

- ・池袋は、丸の内・大手町のように国際的な金融センターとして国内外のヘッドクォーターが集積する地区と競合するポテンシャルはない。
- ・一方で、日本、東京としても、アジア・新興国の成長と活力を取り込み、新たな芽を育てていくことが重要。
- ・日本経済・産業の新たな「創造と成長」の強みとなる「芸術文化」を育て・発展させる拠点として、歴史的なりたち、現状の機能集積、文化の多様性、都市構造などから、池袋に優位性がある。

・新たな創造を支え、発展させるためには、
多様な人や文化を受け入れ、「交流」、
「発信」、「成長」の場が重要。
⇒人々が触れ合い、議論し、競い合い、成長の
芽を育てていく都市機能、都市空間が必要。

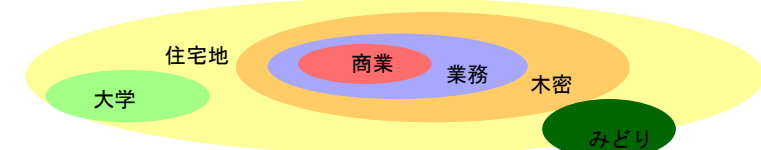
■ 池袋のポテンシャル（池袋らしさ）

- ・まちの多様性、文化の多様性、人の多様性をもつ池袋

- ◆ 駅前の商業施設の巨大な集積
- ◆ 比較的低廉な賃料の事務所ビル
- ◆ 縁辺部でのリノベーションまちづくりの進展
- ◆ 多様な機能がコンパクトにまとまる生活拠点

- ◆ 多様な魅力・文化を生み出してきた池袋
 - ・アトリエ村、トキワ荘など若いクリエイターの揺籃の場としての歴史
 - ・サブカルチャーなどクールジャパンのショーケース
 - ・芸術劇場から小劇場まで揃う
 - ・大学、専門学校等の集積

- ◆ 国内外から多くの人をひきつける居住環境
 - ・アジアを中心とした外国人居住者の集積



■ 土地利用の多様性に富む池袋駅周辺地域

■ 池袋の課題（抜粋）

- ・世界有数の乗降客を活かしたまちづくり
- ・業務拠点性の強化
- ・駅東西の連携強化
- ・周辺の幹線道路整備にあわせた駅周辺の歩行者優先化
- ・環境負荷の低減と安全性を備えた都市づくり（木密の解消）
- ・まちの資産を活かし個性ある美しい都市空間形成、など

● 豊島区国際アート・カルチャー都市構想

- ① 多様性を活かしたまちづくり
- ② 出会いが生まれる劇場空間
- ③ 世界とつながり人々が集まるまち



まちづくり基本コンセプト

世界と融合し アジアの新文化を育くむ インキュベーション都市

■ つねに異文化が触発し、新たな文化を生み出す都市

- ・アジア・世界と融合する新文化・新産業を育て・発信する「ゆりかご」
- ・人々が集い・交流する様々な「舞台」

■ 文化を育む「懐の深さ」のあるまちづくり

- ・都心ではない「縁辺部」で生まれるイノベーション
- ・創造と生活が一体となる「懐の深い」機能や空間

2. 池袋駅周辺地域のまちづくり基本コンセプト

世界と融合し アジアの新文化を育くむ インキュベーション都市

※「インキュベーション」とは、英語で“（卵などが）ふ化する”という意味。インキュベーター（保育器）からの派生語。ここでは、新しい文化や、新しいビジネスを支援・育成し発展させる意味。

■つねに異文化が触発し新たな文化を生み出す都市

●アジア・世界と融合する新文化・新産業を育て・発信する「ゆりかご」

- ・戦後の東京都北西部や埼玉方面の宅地化を背景に、その生活文化を受け止める池袋駅周辺地域は、百貨店が集積するなど東京では屈指の商業地域として発展してきた。
- ・単なる消費の場ではない、文化の発信・交流の場としても機能し、生活と文化や業務機能が一体に形成された街からは、時代とともに変化を遂げながら、多様な文化が生まれてきた。

⇒時代やまちの変化を支え、世界に対し発信し、アジアの新たな産業を育てる『ゆりかご』のようなアート・カルチャー都市を目指す。

●人々が集い・交流する様々な「舞台」

- ・新たな文化は、異文化・異分野との交流に触発されて発芽し、それは「人」が触媒・媒介として拡散・伝播していく。文化を発芽させ成長させるためには、「表現」や「交流」、「批評」などの場が必要。
- ・池袋を特徴づけてきた商業機能が、文化資源、観光資源と連携して発展することで、池袋ブランドを確立し、人を呼び込むインフラの整備と情報発信により異文化の交流をさらに加速させる。

⇒都市開発に合わせて、発表や交流の多種多様な場を仕込み、人々が好んで集い・住まう場が生まれるまちとする。



庁舎跡地の活用による文化にぎわい拠点



多様な文化の発信

■都市イメージ

- ・つねに次世代の文化（カルチャー）、価値観を発芽させ、ショーケースとなるまち。
- ・まち全体で文化の発芽を支える仕組みを擁す＝まちなかでの表現の舞台となる様々な空間。
- ・人と人が触発する、人の顔がみえるまち＝歩行者中心のまちづくり。
- ・新たな文化や生活関連産業の育成、アーティストの生活と創作の場があるまち。
- ・誰もが主役になれる人間優先のスーパー・バリアフリーな都市空間。

■文化を育む『懐の深さ』があるまちづくり

●都心ではない「縁辺部」で生まれるイノベーション

- ・新しい文化やイノベーションは、若い人たちが芸術家のたまごなど経済的な後ろ盾が乏しい人から生まれてきた。そのような芽生えは、これまでも都心の縁辺部で起こってきた。
- ・昭和初期に、それまで市街地の縁辺部だった池袋駅周辺に多くの芸術家や文士が移住し、池袋モンパルナスといわれるアトリエ村を形成した。戦後はデビュー間もない漫画家たちが衣食をともにしたトキワ荘が存在するなど、若いクリエイターたちが揺籃期をすごした場所。

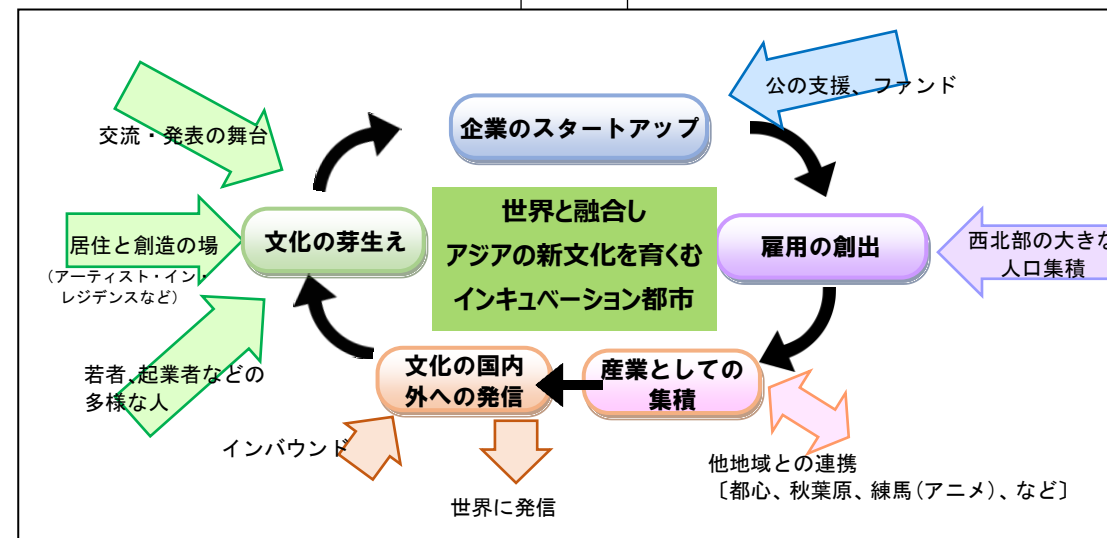
⇒すべてが高密度・高容積ではないメリハリのある土地利用、新・旧、重・軽などが複合する施設・空間の導入を図る。

●創造と生活が一体となる「懐の深い」機能や空間

- ・文化を育むためには、「単に綺麗に整ったまち」だけにするだけではなく、まちに創造と生活の場が一体となるような奥行きや懐の深さを残す。

⇒都市再生を牽引するメジャーな機能や施設だけでなく、低廉な居住と働く場所が一体となったまちを包含させる。

⇒池袋らしい景観などの「まちの味わい」を大切にし、無機質化や他の地域と同質化しないよう留意する。



豊島区で進められているリノベーションスクール



市街地の縁辺部で形成されたアトリエ村（アトリエ村復元模型）



「トキワ荘」記念碑（南長崎花咲公園）

■都市イメージ

- ・クリエイティブ産業やベンチャー企業を支える機能・仕組み・施設の導入。
- ・新・旧が混在し歴史的な厚みを感じられる景観づくり。
- ・既存ストックのリノベーションによる手軽でコミュニケーションが密な空間づくり。
- ・縁辺部は、アーティスト・イン・レジデンスなど、若者が住み続けられる環境をつくる。
- ・すべてが高容積ではなく、周辺部では多様な使い方を誘発する中密な土地利用とする。

3. 池袋駅周辺地域の整備目標（5つの戦略）

① 人々の触れ合いを誘発する機能導入・空間づくり

【文化触発機能を擁するまち】

■ 交流・発信・創造を支える機能の導入

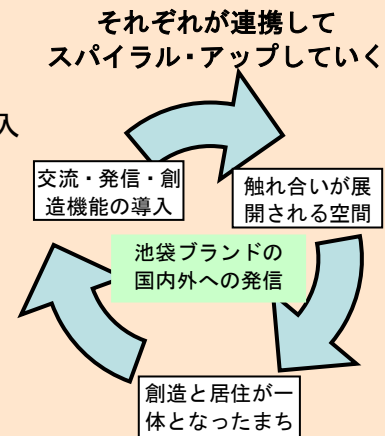
- ・アート・カルチャーを支える各種機能の誘致・受け皿づくり
- ・新たなビジネスを生み出す業務機能、文化・交流機能などの導入
- ・一体的な情報発信・イベント形成のしくみづくり

■ リアルな触れ合いが展開される「劇場空間」の創出

- ・発表・交流の場を、開発事業や公共空間に織り込む
- ・使いやすい環境とするための一体的な運用
- ・国内外から人を呼び込むための様々な滞在・宿泊機能の確保

■ 創造と居住が一体となったまちの形成

- ・アーティスト・イン・レジデンスなど多様な居住機能の導入
- ・リノベーションまちづくりの推進による、多様なニーズに応える活動や居住の場の確保



② 徹底した「歩行者中心のまち」の創出

【くるまが見えない・くるまを意識しないまちづくり】

■ 歩行者優先のまち

- ・歩行者中心のみちづくりへの転換（地区の特色あるみちづくり）
- ・ゾーンコントロールによる歩行者優先空間の形成
- ・過大な駐車場のコントロールによる自動車の引き込み抑制
- ・地下を活用した自動車ネットワークの工夫による安全な歩行空間の形成

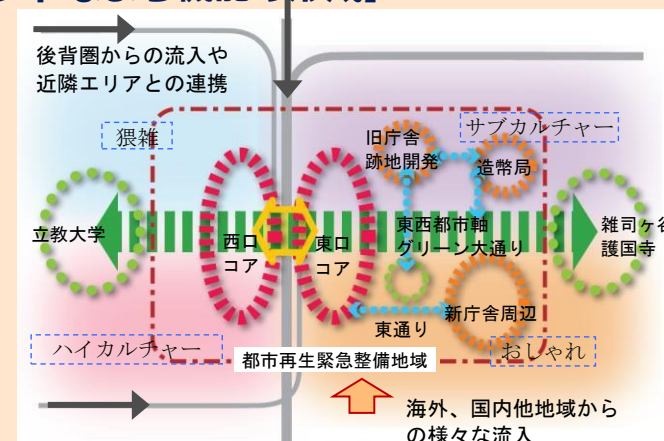
■ 歩いて楽しい歩行者空間

- ・まち全体がモールとなる商業機能・空間創出による時間消費型のまちの形成
- ・東西南北をつなぐ人の流れを誘発する歩行者ネットワークの形成
- ・駅から公共交通への徹底的にわかりやすく使いやすい乗り継ぎ環境の創出

③ 東西を一体としたまち機能の形成

【東西一体でのコンパクトなまち機能の形成】

- ・わかりやすさを醸し出す都市の軸の明確化
- ・駅部をこえるバリアの排除
- ・シームレスな案内サインの充実
- ・駅から周辺への移動を支援する仕組みづくり
- ・サブカルチャー・ハイカルチャーなどの池袋らしい機能集積などと周辺のまちを、多面的に結びつけることで、池袋全体の魅力の向上に資する、交流・発信の空間・機能の連繋の確保



④ 安全の仕掛けづくりによる安心を醸し出す仕組みづくり

【多様な人々が安心できるユニバーサルデザインの都市づくり】

■ 安全が確保されたまち

- ・開発事業、東西デッキなどでうみだされた空間に防災機能を内包する
- ・官民連携し備蓄など発災後の被害軽減機能の向上を図る

■ 安心（セーフ・コミュニティ）のまち

- ・空間デザインや一体的な案内システムによる位置や目的地が認識できる誘導・案内の仕組み
- ・安心して子育てができ、皆が成長できるまち
- ・周辺の木造住宅密集市街地の整備との連携
- ・誰もが自由に安全に移動できる徹底的なスーパー・バリアフリーな都市

⑤ あらゆる面で環境に優れたまち

【環境に負荷をかけず、美しく憩いのあるまち】

- ・エネルギー効率の高い拠点の形成（既存の地域冷暖房活用・連携、清掃工場排熱利用など）
- ・みどりの回廊に包まれた憩いの創出
- ・池袋の個性を活かした魅力ある都市空間の形成
- ・健康と安らぎに寄与する歩行者空間、クール・スポットの確保

■ エリア特性を踏まえたまちづくり（まちの構造）

